

今昔物語

その56

紀州大水害（28年水害）の記録②

大里地区



昭和28年7月撮影



現在

今回も昭和28年に発生した紀州大水害（28年水害）のときに撮影された大里地区の写真をご紹介します。

こちらの写真は、大里津本地区の写真で、本来田んぼであったところが浸水により湖のようになっていました。

大里にお住まいの寺尾邦義さんにお話を伺ったところ、この田んぼで米を栽培するほか、泳いでいるフナを捕まえて食べたり、「田掻き」と言う牛を操り引つ張つてもらう娯楽などをしていたそうです。

また、中央付近にある木の横に舟が見えますが、当時は荷物を運ぶのによく舟を利用しており、このような川舟が相野谷川を運航していたほか、田舟という運搬用の舟で刈り取った稲などを運んでいたそうです。

写真では見えにくいですが、写真の右から左に向かって相野谷川が流れています。昭和54年から川沿いの田んぼの区画を整形する事業と合わせて河川の改修工事が行われ、蛇行した河川の形が現在の形に変わるとともに河川沿いの一部に堤防が整備され現在の姿になりました。

ひょうたん屋

噂のチャットGPTをやってみた

広報の仕事に利用できるかもと思い、最近話題のチャットGPTをやってみました。

試しに「広報きほうのキャッチコピーをファンタジー小説風に」と入れたところ、「その手で、未来を描け——。小さな町が抱える課題に立ち向かい、広報きほうの活躍が描く、青春群像劇。一人ひとりの輝きが、きらめく未来を切り拓く。」と、10秒程度でかっこいい文章が作成されました。ほかにもいろいろ入力してみたところ、ところどころ気になる部分が出てくることもありましたが、どんな質問をしてもすぐに返事が戻ってきてA-の進化に驚きました。まだまだ使いこなせていませんが、「気づけば未来にいた」と感じた40代の今田このころです。

（紀宝町はぐくみの答えは「和歌山県」 愛野裕基

一番苦手な教科は…

先月は学生のころ国語が一番得意だったと書きましたが、一番苦手だったのは英語です。話せたらカッコいいなと思っただけのもの、勉強しなかつたせいもありとても苦手でした。

地域おこし協力隊の北原さんが外国人観光客の方に英語で案内されるというのを聞いて、やっぱり話せるようになりたいなあと考えていると、喋るのが大得意な人が「偶然出会った外国人の人と40分喋った」と言つので、「えー、英語喋れたん!？」と聞くと「喋れんからカタコトの日本語で」と言われました。カタコトの日本語とは…。外国人の方もせめてカタコトの英語で話してほしいかと思いましたが、言葉が通じなくてもコミュニケーションがとれるものなのだなあと驚かされたと同時に、そのコミュニケーション能力の高さをうらやましく思った次第です。

（習得すべきはカタコトの日本語?! 大森菜央）



広報担当 大森です。



広報担当 愛野ひろ。

